

# 徳島新聞

発行所 徳島市中徳島町2丁目5番地2 (〒770-8572)  
徳島新聞社  
電話 (088) 655-7373  
郵便振替口座01690-5-2221  
© 徳島新聞社 2009

5月21日  
木曜日

四国4新聞社共同企画

イチゴを栽培し収穫する。培地加温機能と日射に必要なのは大変な労力がかか センサーが特長だ。 地上二層を日射量から算出に設置したから算出栽培ベッドし、給液に断熱効果のある発泡スチロールによる自動を採用。ペッドに取り付けた電気ヒーターや温水パイプにより、秋冬期でも培地の温度を保ち、収穫増と栽培期間の延長を可能にした。日射センサーは、作物部類に入る。

## ★ 86 ★ 四国の力

開発の現場を訪ねて

### 高設栽培技術「ここはる」

徳農種苗(徳島市)



イチゴ農家の作業負担を軽減する「ここはる」

【メモ】徳農種苗は1948年11月設立。主な事業はビニールハウスや肥料、種苗などの開発販売。資本金7500万円。従業員68人。ここはるの価格は1坪当たり400万~450万円。

簡素化してコストダウンともあった。を実現する一方、培地の制御機能を充実させて差別化を図った。早々に実用化に踏み切った。

入社二年目で開発に携わった水耕企画・開発課の松本健嗣係長は、当時の松本健嗣係長は、当時をこう振り返る。「イチゴの育て方自体を知らなかった。現場で農家の人から教わりながら試行錯誤を繰り返した。イチゴができるのを見たいという思いが、驚いて目が覚めることになった。大きな力になっている。」

イチゴ産地の開発が進んだのがイチゴの高設栽培技術だ。各県で独自の栽培法が模索される中、徳島県内では、徳農種苗(徳島市、井上健社長)が高床式培地加温型栽培システム「ここはる」を開発し

# イチゴ栽培 労力軽減

各県で独自の栽培法が模索される中、徳島県内では、徳農種苗(徳島市、井上健社長)が高床式培地加温型栽培システム「ここはる」を開発し